



オーストラリア・モナシュ大学の語学研修 [関連記事7ページ]

国際交流推進室の設置にあたって



国際交流推進室 室長 半田 祐二郎

国際交流推進室が図書館一階に設置されました。大学は学問の府として地域に、そして世界に開かれなくてはなりません。本学においてその事を一層推進する為、2014年4月1日より、上述の部署が半田祐二郎の教授研究室(国際保健学)と合同という形で開設されたのです。教員の研究室と推進室が合体した形で存在する事は日本の大学では珍しい事でありましょう。

さて、この部屋は事務職(Programme Officer)の戸根谷職員との2名体制でスタートしました。私達の業務の中心となるのは、まさにコミュニケーションです。日本語と外国語(特に英語)を用いた外国の大学、病院、研究機関等とのネットワーク作りです。その特性をとらえ、この部署の英語名称はGlobal Networking Office (GNO)と致しました。やや名称が大げさかもしれませんが、北海道医療大学は今後ますます発展し、学生や教員の皆さんが外国に出かけたり、外国の協定を結んだ機関から留学生、教員の方を本学にお迎えする機会がどんどん増える訳ですから、GNOの名称はそのうちにすぐに皆さんに浸透することでしょう。

すぐ隣の国、ロシア、そして、発展目覚ましい近隣アジア諸国、さらには、魅力とともに、大きな社会問題、健康問題を抱えた世界の開発途上国、また、歴史・伝統とともに、活力の衰えを知らない欧米先進諸国の多くの大学・病院・研究機関等との交流協定を、既に締結されているものについては見守

り、これから締結が期待される箇所とはコミュニケーションを活発化するようにいたします。

私たちは、学生諸君に対しては、短期・中期・長期の留学相談、交流協定大学や病院についての情報提供を行います。そしてお迎えする留学生のサポートも全力でさせていただきます。研究者の皆様に対しては、交流協定の有無に関わらず、必要に応じ、将来の共同研究パートナーとのリエゾン・ワークのお手伝いをさせていただきます。そして、学内環境について、その国際化、おそらく手始めは学内環境における日英での2言語表示の推進等についても、高い関心を持ちながら、「内側からの国際化」の手助けも出来ればと存じます。

学生諸君がより一層異文化・多言語に関わるコミュニケーションに関心を持ち、より良く学ぶ事が出来るように、そしてそれらの経験を通じて、より成熟した社会人として世に出るためには、この大学のキャンパスにより味わいの深いアカデミズムが育つ事が最も大切でありましょう。専攻や専門領域に関わらず、国境や言語を超えた刺激は常に必要なものです。GNOは一種の刺激伝導のメカニズムを作り上げる為に設置された小さいが重要な部署であると自任しております。

どうぞ、気軽に、図書館一階大会議室隣の国際交流推進室(Global Networking Office:GNO)にお立ち寄りください。

CONTENTS

国際交流推進室の設置にあたって	1
教員役職者・新任教員・昇任教員紹介	2
ブラジル留学生(薬・齊藤教授) 心理科学部移転 渋谷ダブルツールカフェオープン	3
国家試験結果報告	4
就職試験結果報告	5
2014年度入試結果報告 新入生オリエンテーション	6
オーストラリア・モナシュ大学語学研修レポート - 就職相談会就職相談	7
私の学生時代	8
OG訪問[言語聴覚療法学科]	9
学校法人東日本学園 ○2013年度決算 ○2014年度予算	10
新入生アンケート結果報告	12
EDITOR'S NOTE	

JICA日系研修員の受け入れを終えて

薬学部薬剤学講座(薬剤学) 齊藤 浩司

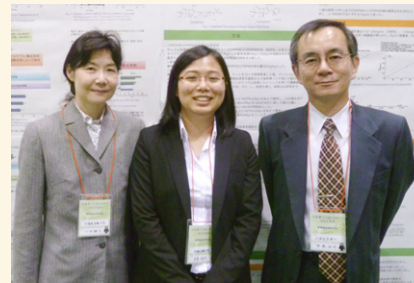
宮島ジュリアネ佳代さんが、昨年6月から本学で行ったJICA日系研修を無事終了し、3月末ブラジルに帰国しました。薬学部薬剤学講座(薬剤学)でJICA日系研修員を受け入れたのは、河合ときえルシアナさん(2006年、ブラジル)、佐藤セシリアアナさん(2010年、アルゼンチン)、宮内クリスチーナみつえさん(2010年、ブラジル)、山崎ダイアナ莉沙さん(2012年、パラグアイ)に次いで5人目です。宮島さんには、3月末の日本薬学会で発表することを目標に、昨年当研究室に導入したLC/MS/MSを駆使してカルバペネム系抗生物質の体内動態を解析するというテーマに取り組んでいただきました。測定機器の操作やラットを用いた実験に当初はかなり苦労されていましたが、限られた時間の中で着実に成果をまとめていただきました。薬学会の規模の大きさに

驚きながらも、そこで発表の機会を得たことは本人にとって大変貴重な経験になったようです。

また、日本の医療システムを学ぶ目的で、札幌東徳洲会病院での研修も行っていただきました。1ヶ月という短い期間でしたが、宮島さんは帰国後日系人医療に携わっていくことを希望していましたので、電子カルテシステムを導入した診療体制や、病棟における服薬指導・注射薬混注業務・医薬品情報収集・在宅医療などの薬剤師業務はとても印象的だったそうです。

冬でも10℃を下回ることがないところで生まれ育った宮島さんにとって北海道の雪と寒さは正に想定外だったようですが、体調を崩すこともなく元気に研修プログラムに取り組み当初の目標を達成してくれたことに、私たち研究室スタッフも大きな喜びを覚えています。

離日に当たっては、薬学会でのポスター発表終了後直ちに熊本から羽田経由で成田に移動し、カタル経由でサンパウロに向かうという強行スケジュールでしたが、熊本城で見た満開の桜の美しさをその目に深く焼き付けてくれたことと思います。



2015年度より、心理科学部が当別キャンパスへ。

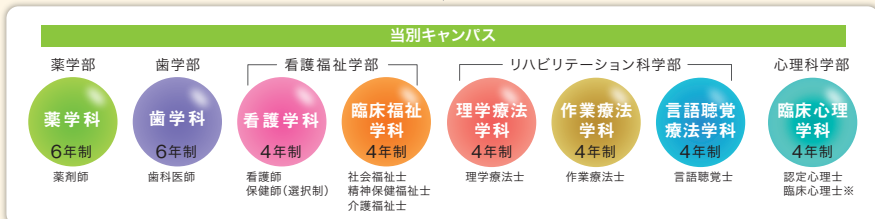
多職種連携教育がさらに充実。

札幌あいの里キャンパスの臨床心理学科・言語聴覚療法学科は、2015年度より当別キャンパスへ移転します。すべての学部学科を、ひとつのキャンパスに集約。これに合わせ、リハビリテーション科学部に言語聴覚療法学科を組み入れ、全国でも数少ない、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の3職種を養成する学部として生まれ変わります(構想中)。医療や福祉に携わる多彩な分野の連携が深まり、「チーム医療」を学ぶ環境がさらに充実します。

〈現在〉



〈2015年度より〉



※公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が指定した大学院修士課程の修了が条件です。本学大学院心理学研究科臨床心理学専攻は第一指定を受けているため実務経験なしで受験が可能です。

渋谷ダブルツールカフェ 北海道医療大学店がオープンしました。

平成26年4月8日(火)東京・渋谷で大人気の「ダブルツールカフェ」が北海道医療大学の中央講義棟10階にオープンしました。これは本学卒業生が多数関わるNPO法人「よきによぎ」と渋谷ダブルツールカフェ、そして北海道医療大学とのコラボレー

ションにより実現したものです。「NPO法人によきによぎ」大原裕吉理事長ご挨拶の後、宮司正毅当別町長、「(有)SS&W」齊藤 正二郎代表取締役社長、野口和夫ショコラティエ、大原裕吉理事長、及び本学より東郷重興理事長、新川詔夫学長がテープカットを行いました。

新たなカフェのオープンにより、中央講義棟10階ラウンジは、よりリラックスできる憩いの場となります。

平成26年4月14日(月)には、安倍昭恵内閣総理大臣夫人が訪問され、夫人は本学の教育理念である「保健・医療・福祉の連携、統合をめざす創造的な教育」の取り組みに深く関心を持っていただき、「地域が主体となる福

祉社会の実現に向けて、協働していきましょう」と学生にお話いただいた後、カフェの味や雰囲気を楽しみながら本学の学生と接していただきました。



■テープカットの様子



■学生との1枚(前列右から4番目が安倍夫人)

本学 全国平均



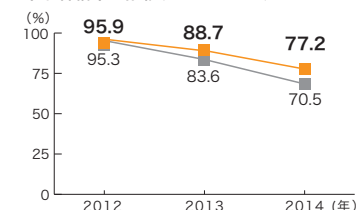
北海道医療大学

(第99回 薬剤師国家試験)

6年制移行後の国家試験でも
全国平均を上回る合格率を達成。

2014年3月、薬剤師教育が6年制になって3度目の国家試験(第99回薬剤師国家試験)が行われました。本学からは新卒者123名が受験、95名が合格し、合格率は77.2%と全国平均を上回る好結果となりました。なお、本学薬学部卒業生総数5,086名の96.9%にあたる4,926名が薬剤師免許を取得しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

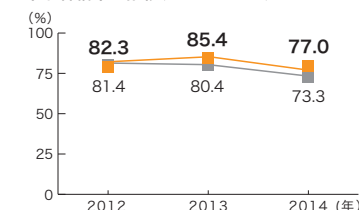


(第107回 歯科医師国家試験)

全国平均を上回る合格率!
免許取得率も98.2%と高水準

2014年に行われた第107回歯科医師国家試験では、本学新卒者74名のうち57名が合格し、合格率は77.0%と、全国平均を上回る結果でした。なお、全卒業者2,997名のうち、98.2%(2,943名)が免許を取得しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

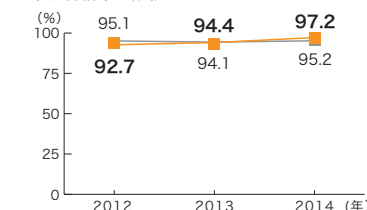


(第103回 看護師国家試験)

全卒業者1,844名のうち、
98.4%が免許を取得

2014年に行われた第103回看護師国家試験では、本学新卒者106名のうち103名が合格し、合格率は97.2%でした。なお、全卒業者1,844名のうち、98.4%(1,814名)が免許を取得しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

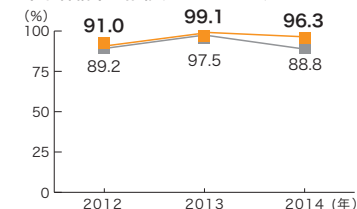


(第100回 保健師国家試験)

新卒合格率は96.3%。
多くが看護師とのダブルライセンスを獲得

2014年の第100回保健師国家試験では96.3%(受験者108名、合格者104名)でした。また、合格者のうち99名が看護師と保健師の国家資格をダブル取得しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

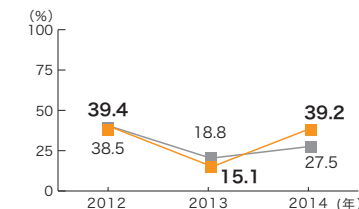


(第26回 社会福祉士国家試験)

社会福祉士国家試験の
全国平均は27.5%

2014年の第26回社会福祉士国家試験での本学新卒合格率は39.2%(受験者51名、合格者20名)でした。なお、全国平均は27.5%で、昨年に続き厳しい結果でした。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

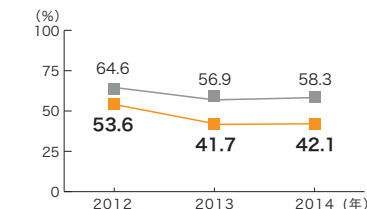


(第16回 精神保健福祉士国家試験)

合格者の多くが
社会福祉士とのダブルライセンスを取得

第16回精神保健福祉士国家試験の新卒合格率は42.1%(受験者19名、合格者8名)でした。また、精神保健福祉士コースを履修した学生の多くが社会福祉士とのダブルライセンスを実現しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

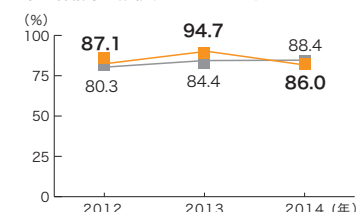


(第16回 言語聴覚士国家試験)

新卒合格率は86.0%
1期生から連続して全国平均を上回る

2014年の第16回言語聴覚士国家試験での本学新卒合格率は86.0%(受験者50名、合格者43名)で、学部開設以降8年連続して全国平均を上回る合格率を挙げていましたが、今回はわずかに下回る結果となりました。また、これまでの全卒業生497名のうち475名が言語聴覚士国家資格を取得しています。

■本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



■登録・認定資格取得結果

資格・対象学部学科等	取得者数
介護福祉士 北海道医療大学 看護福祉学部臨床福祉学科 (介護福祉コース)	5名
認定心理士 北海道医療大学 心理科学部臨床心理学科	66名
介護職員初任者研修 北海道医療大学 看護福祉学部臨床福祉学科	2名 (修了者)

※取得者数は申請要件を満たしている者の数

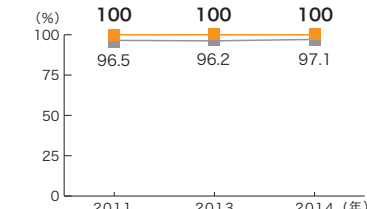
歯学部附属歯科衛生士専門学校

(第23回 歯科衛生士国家試験)

6年連続100%
3年制移行後も安定した合格率

2014年の歯科衛生士国家試験は、本校から第28期生36名が受験し、全員が合格して合格率100%を達成しました。開校以来、高い国家資格取得率を堅持しています。また、本校は文部科学省の定める一定の基準を満たした専門学校なので、卒業すると「専門士」の称号が与えられます。

■本校合格率の推移(新卒のみ過去3年)



※3年制移行のため2012年の受験はありません

就職状況 結果報告

本学卒業生への評価の高さが、求人者の質・量に直結。
より深い知識修得を目指し大学院へ進学する人も。

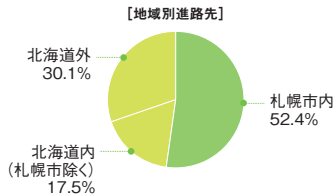
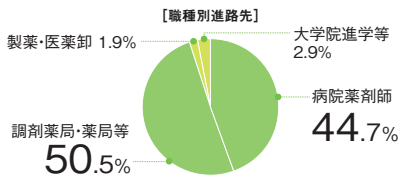
薬学部

2014年も5,000人を超える求人
6年制移行後も高い就職率を維持

6年制移行後3回目の卒業生となる2014年も、全国から5,000人を超える求人が寄せられました。卒業生の多くが希望どおりの就職を果たし、総合病院を中心に病院薬剤師として、また調剤薬局の薬剤師として活躍しています。また、2014年卒業生の約30%が北海道外へ就職しています。

■2014年3月卒業生の就職先

求人数	
薬剤師	5,341人
MR・研究開発職	166人



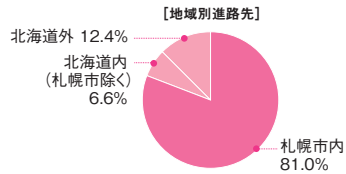
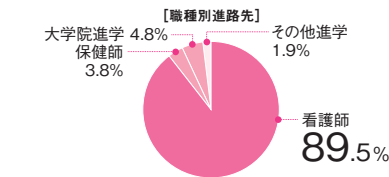
看護福祉学部 / 看護学科

卒業生は、札幌と首都圏を中心に
全国の総合病院で活躍

1993年の開設以来2014年3月までに、本学看護学科からのべ1,844名の卒業生が巣立っていました。その多くが大学病院、公立病院を中心とした全国の総合病院で活躍中です。医療現場が本学卒業生へ寄せる期待の大きさは、例年の求人数の多さからもわかります。

■2014年3月卒業生の就職先

求人数	
看護師	19,992人
保健師	154人



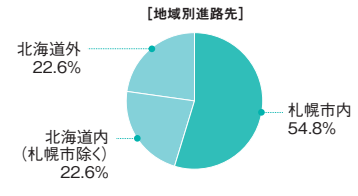
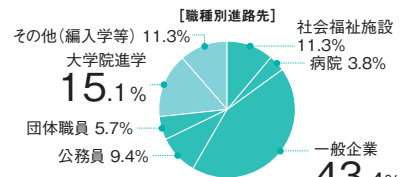
心理科学部 / 臨床心理学科

ビジネス界、医療・福祉、進学、
専門性を生かす進路は多彩です

2014年3月卒業生の15.1%が医療や福祉の現場へ就職、15.1%が臨床心理士資格取得をめざして大学院へ進学しました。一方、40%以上は業種業態を問わずさまざまな企業で、また公務員として、専門性を応用する道を選んでいきます。

■2014年3月卒業生の就職先

求人数	
心理職	53人
一般事務-その他	2,543人



歯学部

卒業生全員が臨床能力の向上を
めざして臨床研修医の道へ

歯科医師国家試験合格後には臨床研修が義務化されています。2014年3月の本学の歯科医師国家試験合格者も全員が研修歯科医となり、本学歯科クリニック、大学病院をはじめとした全国の臨床研修施設で研修を行います。

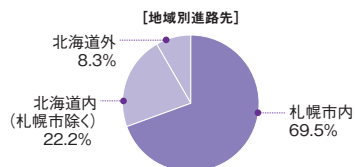
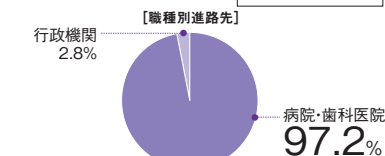
歯学部附属歯科衛生士専門学校

28期連続、就職希望者全員が就職

2014年の卒業生に対する求人数は450名で、就職希望者全員が就職し、開校以来28期連続で100%就職を果たしました。また本年度は卒業生全員が病院・クリニックや歯科医院に就職しましたが、障がい者施設、地域住民を対象に歯科健診や保健指導を行う保健所や市町村の保健センターなどへ就職することもできます。

■2014年3月卒業生の就職先

求人数	
歯科衛生士	450人



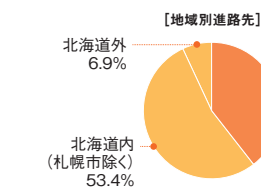
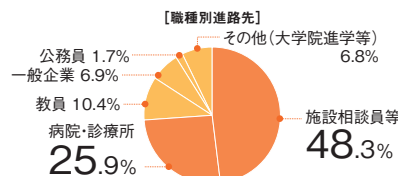
看護福祉学部 / 臨床福祉学科

卒業生の8割が福祉専門職
教員の夢も6名が叶えました

2014年3月卒業生のうち86.3%が病院、デイサービスセンター、特別養護老人ホーム、老人保健施設などに福祉の専門職として就職しています。また、6名は養護学校等の教員になりました。本学科の専門職の年間求人は2,000人以上と、出身地への就職も安心です。

■2014年3月卒業生の就職先

求人数	
MSW・PSW	168人
施設指導員・介護職員等	2,128人
一般事務-その他	2,543人



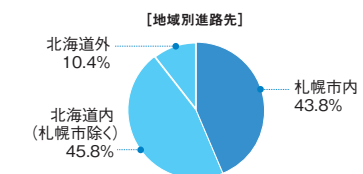
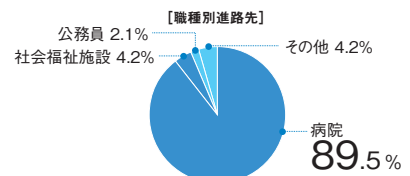
心理科学部 / 言語聴覚法学科

2014年卒業生の約90%が
病院の言語聴覚士として活躍

専門の治療・訓練を必要とする言語聴覚障がい者の増加に伴って言語治療を行う医療機関や福祉施設が増えていることから、毎年本学科には多くの求人が寄せられ、就職実績は安定したものとなっています。2014年3月卒業生は就職者の約90%が病院へ就職しました。

■2014年3月卒業生の就職先

求人数	
言語聴覚士	756人



2014年度 入試 結果報告

本年度の志願者総数は6,949名。

前年度よりも志願総数増。

リハビリテーション科学部開設により、志願者総数は前年度より812名増の6,949名で、志願者総数は増加しました。

編入学試験の志願総数は50名。

本学全体では50名が編入学を志願しました。うち27名が入学して、実質競争倍率は1.5倍でした。

専門学校志願者の約8割がAO方式入試を利用。

毎年志願者の多くがAO方式入試を利用しており、志願者は昨年43名から49名へと増加し、全体の約82%を占めました。

■2014年度入試結果
北海道医療大学

歯学部附属
歯科衛生士専門学校

	薬学部		歯学部		看護福祉学部		心理科学部		リハビリテーション科学部		歯科衛生科
	看護学科	臨床福祉学科	臨床心理学科	言語聴覚療法学科	理学療法学科	作業療法学科					
AO方式入試	志願者数	47名	15名	37名	4名	19名	18名	47名	24名	49名	
	受験者数	47名	15名	37名	4名	19名	18名	47名	24名	48名	
	合格者数	26名	15名	10名	4名	16名	15名	13名	8名	48名	
	入学者数	26名	13名	9名	4名	16名	14名	13名	8名	44名	
	実質倍率	1.8倍	1.0倍	3.7倍	1.0倍	1.2倍	1.2倍	3.6倍	3.0倍	1.0倍	
一般推薦入試	志願者数	24名	1名	44名	0名	5名	5名	30名	13名	2名	
	受験者数	24名	1名	44名	—	5名	5名	30名	13名	2名	
	合格者数	20名	1名	21名	—	4名	4名	20名	8名	2名	
	入学者数	20名	1名	21名	—	4名	4名	19名	8名	2名	
	実質倍率	1.2倍	1.0倍	2.1倍	—	1.3倍	1.3倍	1.5倍	1.6倍	1.0倍	
指定校 特別推薦入試	志願者数	47名	0名	28名	9名	8名	20名	7名	2名	—	
	受験者数	47名	—	28名	9名	8名	20名	7名	2名	—	
	合格者数	47名	—	28名	9名	8名	20名	7名	2名	—	
	入学者数	47名	—	28名	8名	8名	19名	7名	2名	—	
	実質倍率	1.0倍	—	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	—	
一般前期入試 (大学)	1日目 志願者数	242名	60名	378名	163名	212名	177名	254名	275名	1名	
	2日目 志願者数	189名	51名	331名	147名	183名	162名	192名	230名	—	
	1日目 受験者数	235名	57名	364名	160名	209名	173名	253名	270名	—	
	2日目 受験者数	179名	46名	316名	142名	175名	157名	191名	225名	—	
一般前期(A・B日程) (専門学校)	合格者数	110名	65名	103名	179名	132名	85名	65名	83名	1名	
	入学者数	41名	6名	32名	17名	21名	8名	26名	17名	0名	
	実質倍率	3.8倍	1.6倍	6.6倍	1.7倍	2.9倍	3.9倍	6.8倍	6.0倍	1.0倍	
	実質倍率	3.8倍	1.6倍	6.6倍	1.7倍	2.9倍	3.9倍	6.8倍	6.0倍	1.0倍	
一般後期入試	志願者数	97名	110名	77名	50名	64名	60名	65名	73名	8名	
	受験者数	91名	103名	75名	49名	60名	58名	64名	70名	6名	
	合格者数	17名	91名	14名	47名	39名	15名	10名	10名	6名	
	入学者数	9名	20名	8名	3名	6名	4名	6名	2名	2名	
	実質倍率	5.4倍	1.1倍	5.4倍	1.0倍	1.5倍	3.9倍	6.4倍	7.0倍	1.0倍	
センター前期A入試	志願者数	267名	166名	226名	119名	150名	131名	190名	200名	—	
	受験者数	267名	166名	226名	119名	150名	131名	190名	200名	—	
	合格者数	64名	150名	54名	102名	64名	61名	32名	51名	—	
	入学者数	18名	22名	8名	12名	8名	7名	10名	3名	—	
	実質倍率	4.2倍	1.1倍	4.2倍	1.2倍	2.3倍	2.1倍	5.9倍	3.9倍	—	
センター前期B入試	志願者数	130名	62名	95名	91名	121名	88名	150名	130名	—	
	受験者数	130名	62名	95名	91名	121名	88名	150名	130名	—	
	合格者数	40名	58名	30名	90名	59名	49名	24名	31名	—	
	入学者数	11名	4名	3名	13名	9名	8名	1名	3名	—	
	実質倍率	3.3倍	1.1倍	3.2倍	1.0倍	2.1倍	1.8倍	6.3倍	4.2倍	—	
センター後期入試	志願者数	56名	35名	25名	39名	49名	39名	51名	43名	—	
	受験者数	56名	35名	25名	39名	49名	39名	51名	43名	—	
	合格者数	16名	34名	11名	39名	38名	16名	9名	15名	—	
	入学者数	4名	5名	1名	3名	3名	1名	1名	1名	—	
	実質倍率	3.5倍	1.0倍	2.3倍	1.0倍	1.3倍	2.4倍	5.7倍	2.9倍	—	
TOTAL	志願者数	1,099名	500名	1,241名	622名	811名	700名	986名	990名	60名	
	受験者数	1,076名	485名	1,210名	613名	796名	689名	983名	977名	57名	
	合格者数	340名	414名	271名	470名	360名	265名	180名	208名	57名	
	入学者数	176名	71名	110名	60名	75名	65名	83名	44名	48名	
	実質倍率	3.2倍	1.2倍	4.5倍	1.3倍	2.2倍	2.6倍	5.5倍	4.7倍	1.0倍	

2014年度 新入生オリエンテーション

本学では、新入生が大学での新生活をスタートするにあたり、一にも早く環境に慣れ、将来の目標に向かって充実した学生生活を送れるように、新入生を対象とした様々なオリエンテーション・ガイダンスを実施しています。今年度は入学式翌日の4/8(火)から4日間にわたり実施されました。

前半は学内でのガイダンスを実施し、4/10からは札幌市南区定山溪の各ホテルを会場に、一泊二日にわたって宿泊オリエンテーションを実施しました。

「卒業生による講演会」、「同窓会提供イベント」、

「各種相談コーナー」など各学部独自のプログラムが組まれ、本学同窓会を中心に社会の第一線で働く各学部の卒業生、そして上級生や教員が一体となった楽しく充実した多くのイベントが実施されました。また、黒澤副学長、大野学事相談役にもご参加いただき各学部・学校の会場でご挨拶をいただきました。

食事時間や自由時間では、新入生同士が大いに交流を深め、温泉を楽しむなど、夜遅くまで学生の宿泊室からはにぎやかで楽しげな声が聞かれました。



REPORTS

English language &
cultural seminar in Australia.

[University of Monash]



オーストラリア・モナシュ大学 語学研修レポート

去る3月2日(日)～3月22日(土)までの約3週間にわたり、
歯学部7名、看護学科2名、言語聴覚療法学科1名、計10名の学生と教員2名が
オーストラリア・モナシュ大学の語学研修に参加しました。

研修を体験してきた学生たちからは、「語学のみではなく、オーストラリアの風土、文化の違いについて学ぶことができました。この体験をきっかけに普段関わることのなかった他学部の人達と友達になることができました。語学研修へ参加したことは、自分にとって、良い刺激、良い経験となりました。」「3週間の短い期間でしたが、多くの経験をすることができました。以前から語学研修に参加したいと思っていましたが、英語が得意というわけではないので、ついていけるのかということが不安でした。ですが実際参加してみると、分からない事は丁寧に教えてくれましたし、先生は優しく、私が理解できるまで何度も話しかけてくれました。授業内では英語についてのみを勉強するのではなく、オーストラリアの文化、歴史などに関し



て学びました。英語の語学については勿論、オーストラリアについて、もっと関心が沸いた授業でした。」などの声が寄せられました。



平成26年度 北海道医療大学薬学生セミナー (学内合同就職相談会)開催

平成26年5月8日(木)、薬学部学生を対象とした「平成26年度5月薬学生セミナー(学内合同就職相談会)」が開催されました。

当日は道内外の病院・公務等団体から薬剤部門責任者・人事担当者など、118団体約200名の方々が来学し、学生に対して就職に関する説明や相談等をしていただきました。

参加した学生は各ブースを積極的に訪れ、真剣な表情で説明を受けるなど、終始賑わいをみせていました。本学では各学部部に就職委員会を設置し、就職ガイダンスや専門講師を招いての各種セミナーを数多く実施するなど、学生のより確実な就職にむけて、教職員協働のうえ、きめ細やかな指導をしております。本学各学部・学科に関わる求人のお申し込みについては本学ホームページをご参照ください。



5月8日 [参加団体] 118団体

●病院: 87病院 ●薬局: 25社 ●行政等: 6団体

就職関連ホームページ

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~syusyoku/index.html>

私の学生時代

リハビリテーション科学部
理学療法学科

講師 佐々木 祐二



今から約20数年前の大学受験の時ですえ、理学療法士としてこのように働いているなんて想像もしていなかった。当時の私は、数学だけが得意で理学部の数学科へ入学し将来は数学の教員になるというのが夢であった。浪人までしたのだが北大は厳しい状況、そこで兄の知人から「理学療法はどよう？」って教えてもらった。何としても大学に入らなければというわけで「理学部＝理学療法？」という単純な発想で、何も知らずに当時の札幌医大衛生短大に入学した。そんな状況だったので、解剖学や生理学な



“年上の同級生と石狩浜にて”中央が私。

どまったく訳が分からない。“好きで入った学校じゃないし…”と努力もせず、現実逃避し仮面浪人をしてた。2足のわらじをはくというのは大変であったが、前期試験はOKだろうと結果を見ることなく、夏休みを満喫していた。今考えれば、結果も見ずに遊び呆けるなんて恐ろしいやつだと自分ながらにびっくりしてしまう。しかも、酔った挙句に右手を骨折してしまった(ちなみに、全部クリアしてました)。この右手の骨折で受験勉強をあきらめたのか、授業が大変になってあきらめざるを得なかったのかは覚えていない…しかし、振り返ってみて自分が理学療法士を目指すきっかけとなったのは恩師である宮本重範先生存在であったことは間違い無い。当時、毎日のようにテレビで流れていた“コンスタンチン君”のリハビリをしていたのが先生であり、“身近にそんなすごい人がいるんだ”って、半ばミハイ気分興味を持ち、

私の学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。今回は佐々木祐二講師と下村敦司教授のお二人に、当時の様子を語っていただきました。



実習の打ち上げにて”中央列左から2人目が恩師宮本先生、3人目が私。

先生の講義の中で徒手の理学療法の素晴らしさを感じ、現在に至っている。

私の同期も、初めから理学療法士を目指していた人、医学部を目指していた人、臨床検査技師から転向してきた人など、18歳から38歳までバラエティーに富んでいた。テストや実習の打ち上げではみんな飲み・語りあかささまざまな刺激ももらったものである。

さて、あらためて学生時代を振り返ってみると… バイトもしていたが、ほとんどが飲み代

に消えていくなどひたすら飲んでいったような気がする。ただ同じ釜の飯を食ったというわけではないが宮本先生をはじめ、同じ努力・苦勞をしたかけがえのない仲間たちと出会うことのできた、とても大きな財産を得た時代である。

私の学生時代

心理科学部
言語聴覚療法学科

教授 下村 敦司



バブル景気と呼ばれる異常な好景気の時代、神戸大学に入学しました。大学はとても自由な校風であり、学生各人が好きなことに集中できたように思います。勉強したい学生は勉強に、そうでない学生は…。私は後者の方でした。勉強もせず何をしてたかという、ダンスです。ダンス一色の大学生活を送りました。それまで、ダンスなんて小学校の体育の授業で少しやったぐらいで、ほとんどやったこともないし、何も知りません。部の新歓行事に参加しているうちに、何となく楽しそうかなという軽い気持ちで入部しまし

た。新歓の時には何も聞かされていなかったのですが、かなり実力のある部であることを入部後に知ります。全国大会で入賞される先輩方、ある部門にいたっては毎年行われる全国大会で優勝を続け、その記録をどこまで続けられるかといったレベルでした。そういった先輩方と良き同級生に囲まれ、徐々にダンスの魅力と部にはまってゆきました。先日朝早く、あいの里キャンパスに出勤すると学生さん達がダンスの練習をしているのを見かけました。「あんなふうに、熱心に練習していたんだよなあ。」さて、全国大会優勝記録ですが、部みんなの頑張りにより、私の卒業まで更新し続けることができました。卒業後は大学院に進学しましたので、こ

こからさらに6年間学生を続けることとなります。大学院からは一転して、勉強に集中しました。博士課程からは神戸を離れ、名古屋大学の萩原正敏先生(現、京都大学大学院教授)の元で学生生活を送りました。先生はとてもユニークなアイデアをお持ちで、研究の楽しさを教えていただきました。ここでの学生時代は、がむしゃらに走ったという記憶しかありません。そして、修了までに数報の研究論文を仕上げることができました。今でも萩原先生とお話する機会があると、この時のことは褒めていただけます。

何事にも全力で真剣に取り組むと、必ず良い形で還ってきます。ただし、それだけではだめ。良い“仲間”と手本となる“師匠”が必要だと、学生時代に学びました。

OB訪問

今回ご紹介するのは卒業6年目を迎えたST(言語聴覚士)清水さん。
札幌ドームを間近に望む柏葉脳神経外科病院の
リハビリテーション科に所属、
担当する急性期病棟でSTリーダーとして活躍中です。

柏葉脳神経外科病院(札幌市) 言語聴覚士
清水 拓矢さん(心理科学部言語聴覚療法学科2009年3月卒業)



6年目の仕事

清水さんはST(言語聴覚士)として担当患者さん1日10人前後の言葉や嚥下(えんげ:飲み込み)の訓練を行うほか、2つに分かれる急性期病棟の一方のSTリーダーとして、STが関わる患者さんすべての状況を把握、週2回の病棟総回診にも参加しています。昨年度からは新人教育、今年度からは実習生の指導にも携わるようになりました。日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士めざして勉強も進めており、STとして、医療者として、着々と前進している卒業生です。

避けて通れぬ問い

清水さんが担当する病棟には急性期(発症直後)治療後の患者さん、パーキンソン病など神経疾患や脳腫瘍等の患者さんが入院しています。医療職の例にもれず、清水さんの毎日やりがいと厳しい自問との背中合わせです。

避けて通れない問いの一つに、治療やリハビリで一時的回復は望めても、病状進行は止められない病、たとえば脳腫瘍の患者さんにどう向き合うかがあります。「最初は口から食べ、意思疎通できる期間を最大限延ばすために嚥下や言語面の維持を中心に訓練しますが、最終的には体が硬くなるのを防ぎ、少しでも楽



多くの患者さんが退院後も障がいとともに日常生活を送ることになります。清水さんがめざすのは、患者さん自身が「できるだけのことをした」と思うことで前向きになれるリハビリです。



言語訓練では音楽療法士とも連携。太鼓のリズムが発話リズムのコントロールを助けたり、ふだんは出ない声が出せるといふことも多いそう。患者さんの意欲を引き出す効果も大です。

に呼吸できることが、STにも目標となります。当然すべての過程でベストを尽くしますが、それでも看取った後は自分の関わり方でよかったのか、深く考えさせられます。

そんなとき患者さんのご家族からいただく感謝の言葉は、清水さんにとっていちばんのねぎらいと次に進むための励みになります。

「人」を診る

清水さんのモットーは「病気ではなく人を診る」。医療現場で経験を積むほどに、より深く心に刻んできたことです。生活環境、性格、病棟での様子などあらゆる面から患者さんを理解し、STの専門分野に偏らず患者さんの生活の質を考えます。

脳卒中(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血等の症状の総称)患者さんはじめ、清水さんは突然の発症で大きく変えられてしまった人生をたくさん見てきました。「患者様は180度の変化といえるような現実に直面し、落ち込み、不安と共に

入院生活を過ごさなければなりません。STとして障害像を評価し訓練を行うだけでなく、患者様の辛さを思い、心の声に耳を傾け、こたえない」。清水さんの言葉は柏葉脳神経外科病院が重きを置く「心と体のリハビリテーション」そのものです。

チームの中のST

柏葉脳神経外科病院では、大きくスペースをとった理学療法・作業療法用リハビリテーション室の向かい側に言語聴覚療法室があり、その並びには音楽療法室、臨床心理室が続いています。スタッフの動きを見ていると複数分野の連携の確かさが伝わってきます。「患者様ごとのリハビリ期間やゴールはPT(理学療法士)、OT(作業療法士)と共に考えます。STでも必要があれば歩行訓練もしますし、音楽療法士とも組みます」。

「医療職の中でも未知数の将来性があることからSTを選んだ」という清水さん。実習でやってきて清水さんの指導を受ける学生にも、STの仕事の現在進行形の広がり、可能性、魅力を存分に伝えてくれるはずですよ。



柏葉脳神経外科病院では13人のSTが活躍中。横岡優美子さん(前列右から2番目)、鈴木暁さん(後列右)は共に本学の言語聴覚療法学科の前身である札幌医療福祉専門学校言語聴覚療法学科の卒業生です。

2014年 新入生アンケート 結果報告

毎年恒例の全学実施の新入生アンケート。新入生が本学のどこに魅力を感じて志願したのかを聞いてみました。

多くの学生が「医療系総合大学」に期待。

全ての学科において、医療系総合大学である点を魅力に挙げた学生が多いという結果になりました。また「学生生活」という回答も多く、課外活動などでも他学科との交流が盛んなことに対する大きな期待があらわれています。

注目が集まる「国家試験成績」と「キャンパス環境」。

高い合格率を誇る国家試験成績にも、回答が集中。また「キャンパス環境」を挙げる学生も多く、臨床心理学科、言語聴覚療法学科では1番の魅力に。自然と先端の施設・設備で学べる環境も本学の強い魅力であると言えます。

歯科衛生士専門学校では、およそ8割がオープンキャンパスに参加。

施設見学や体験学習などを通して学校の雰囲気や自分の目で実際に確かめられるオープンキャンパス。例年通り、多くの学生がこの機会を利用していることがわかります。

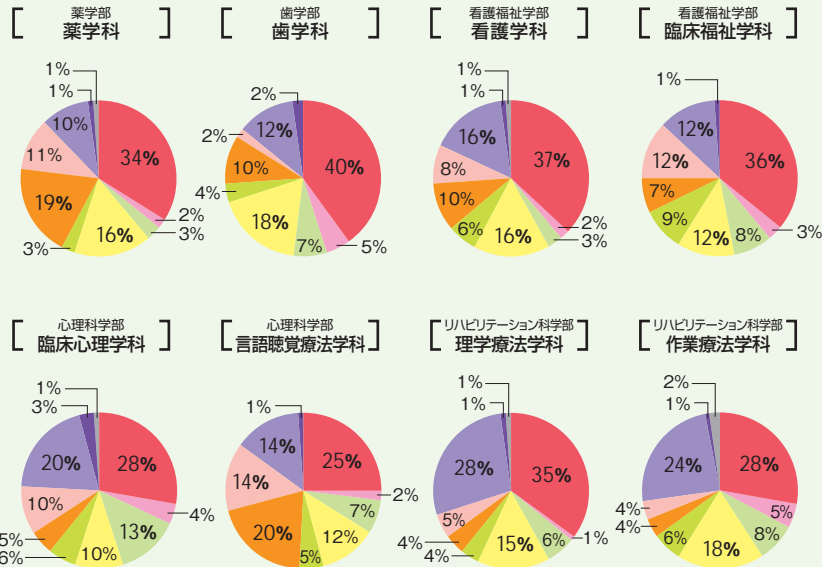
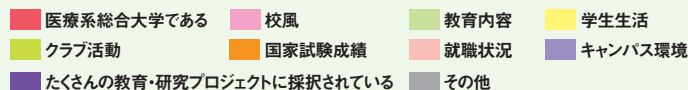
■有効回答者のプロフィール

	薬学部	歯学部	看護福祉学部 看護学科	看護福祉学部 臨床福祉学科	心理科学部 臨床心理学科	心理科学部 言語聴覚療法学科	リハビリテーション科学部 理学療法学科	リハビリテーション科学部 作業療法学科
回答者人数	184※1	78※1	109	62※1	74	64	81	44
出身地								
北海道	154	56	105	55	61	50	74	44
東北	17	5	0	5	7	10	4	0
東京・神奈川・千葉・埼玉	2	2	2	1	2	2	1	0
上記以外の関東甲信越	5	0	1	0	1	2	0	0
東海・北陸	2	1	1	1	1	0	1	0
関西	1	6	0	0	0	0	0	0
中国・四国	1	2	0	0	1	0	0	0
九州・沖縄	2	6	0	0	1	0	1	0
性別								
男	90	54	16	38	31	17	37	13
女	94	24	93	24	43	47	44	31
卒業年度								
2014年3月	134	27	91	50	68	58	73	41
2013年3月	27	21	14	7	4	5	7	2
2012年3月以前	23	30	4	5	2	1	1	1
入試形態								
AO方式入試	26	13	9	4	16	14	13	8
一般推薦入試	19	1	21	0	4	4	19	8
特別推薦入試	47	0	27	8	8	18	5	2
一般前期入試	41	6	32	17	20	8	26	17
センター前期A入試	18	22	8	12	8	7	10	3
センター前期B入試	11	4	3	13	9	8	1	3
一般後期入試	9	7	8	3	6	4	6	2
センター後期入試	4	5	1	3	3	1	1	1
一般後期B試験	-	11	-	-	-	-	-	-
編入学試験	9	9	0	2	0	0	0	0

※1 編入生を含める ※2 一般後期B入試

北海道医療大学

Q. 本学を志望した際、併願を考えた他大学と比べて本学のどこに魅力を感じましたか？

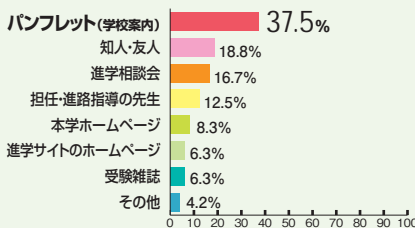


歯学部附属歯科衛生士専門学校

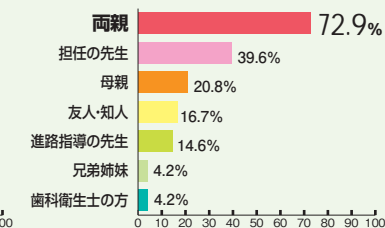
Q. 本校のオープンキャンパスに参加しましたか？

参加した **77.1%**

Q. 本校を何で知りましたか？(複数回答可)



Q. 進路決定にあたって誰に相談しましたか？(複数回答可)



EDITOR'S NOTE

当別の地にも、ようやく待ち望んだ春がやってきました。春といえば、新たな出会いの季節でもあります。新しいスタートをきったばかりの新入生や新社会人を見かけると、その初々しい表情に思わずこちらも清々しい気持ちにさせられるものではないでしょうか。本学のキャンパスも、そういった夢や希望に満ち溢れた、たくましい表情をした学生たちで賑わっています。

この時期は、フレッシュな新入生や新社会人と出会う機会が増え、その度に「若い!」「若いってうらやましい!」などと心の中で思うことがある方も少なくないと思います。新入生や新社会人との出会いは、忘れかけていた「若さ」をふと思い出させてくれるとても貴重な時間です。「過去は振り返らない」という人もいますが、たまには青春時代に思いを馳せて懐かしむことも、気持ちを若く保つためには必要なことで、気持ちさえ若返ってしまえば、「あの頃にやっておけば…」何かを始めるにはもう遅い…」などという後悔も、案外まだ遅くはないのかもしれない。

(K.S記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.158

STAFF ● 遠藤 泰 派上 尚也 中山 英二 鎌口 有秀
遠藤 紀美恵 派上 志渡 晃一 漆原 宏次 田村 至
大塚 裕之 宮川 雄一 宮川 恵 杉原 佳奈 杉谷 昌彦
宮川 雄一 宮川 恵 杉原 佳奈 杉谷 昌彦

発行日 ● 2014年7月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
☎(0133)22-2113
http://www.hoku-iryu-u.ac.jp

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしております。
E-mail:nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp



■北海道医療大学の教育理念
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。